只見町ブナセンター
TEL 0241(72)8355

トノサマバッタ

（学名：*Locusta migratoria*）　（文 吉岡義雄）

▲ 日中はこのように、地面にどっしりと構えていることが多い

▲ トノサマバッタの好む明るい草地

トノサマバッタは裸地や明るい草原に生息し、公園や土手などでもよく見られる身近なバッタです。アフリカなど外国の大発生では農作物を食い尽くすことで有名ですが、国内で問題になることはほとんどありません。これは、日本では広大な草原がないことから大発生自体が起こりにくいこと、加えて大発生が起こってもすぐに終息することが理由としてあげられます。なぜ大発生がすぐに終息するのか、これには彼らの生活史と日本の気候的な要因が深く関わっています。その仕組みを紹介しましょう。

只見も含む東北の寒冷な地域でトノサマバッタの成虫が発生するのは７月下旬から８月の年１回で、産卵すると年越しして翌春孵化（ふか）します。より温暖な関西などでは、６月下旬ごろに第一世代の成虫が発生し、その卵は冬を待たず７月下旬から８月上旬に孵化します。そのため８月下旬には第二世代の成虫が発生します。さらに温暖な沖縄の南西諸島では第三世代まで成虫が発生します。

なぜこのような違いが生じるのでしょうか。寒冷な地域のトノサマバッタの卵は冬を経験しないと孵化しない仕組みを備えており、年１回しか成虫が発生しないのです。厳しい冬を卵で越すための戦略を備えているといえます。逆に年中暖かい南西諸島ではそのような仕組みは不要です。つまり、成虫の発生回数の違いは各地域に適応した集団の習性なのです。仮に国内で大発生したバッタが他の地域に移動すると、その地域の気候に適応できず死滅してしまうのです。これが、日本でトノサマバッタの大発生が長期化しない理由です。

只見町ブナセンターからのお知らせ

只見町ブナセンター付属施設「ただみ・ブナと川のミュージアム」では下記企画展を開催中です。皆様のお越しをお待ちしております。

企画展「只見のブナ林の昆虫」

会　期：２０２１年７月３１日(土)～２０２１年１１月２９日(月)
場　所：ただみ・ブナと川のミュージアム　２階ギャラリー

※この広報紙は再生紙を使用しています
※環境にやさしい大豆油インキを使用しています

■ 発行／只見町　〒968-0421 福島県南会津郡只見町大字只見字町下2591-30
■ 編集／地域創生課広報広聴係　https://www.town.tadami.lg.jp/　☎ 0241(82)5220